



Sun Studio 11 インストールガイド (Linux プラットフォーム)

Sun™ Studio 11

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-4642-10
2005 年 11 月, Revision A

Copyright© 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

フロント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、および JavaHelp は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.(以下、米国 Sun Microsystems 社とします)の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

このマニュアルに記載されている製品および情報は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

原典:	<i>Installation and Setup Guide for Linux Platforms : Sun Studio 11</i> Part No: 819-3051-10 Revision A
-----	---



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに	ix
書体と記号について	x
シェルプロンプトについて	xi
Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページへのアクセス	xi
Sun Studio マニュアルへのアクセス方法	xv
開発者向けのリソース	xvi
技術サポートへの問い合わせ	xvii
1. インストールの準備	1
ソフトウェアのインストールの概要	2
システム要件	2
スワップ空間の追加	3
インストーラのローカル表示とリモート表示の選択	5
リモート表示によるインストールの準備	5
NFS マウントのファイルシステムへのインストール	6
このリリースに含まれるインストール機能	7
2. Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール	9
旧リリースの Sun Studio のサポート	9
ダウンロードしたファイルのインストール	9

- インストール方法の選択 10
- GUI インストーラによるインストール 11
- コマンド行インストーラによるインストール 14
- バッチインストーラによるインストール 16
- J2SE プラットフォームのインストール 18
- インストールの成功の確認 19
- 開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定 20
 - Sun Studio 11 ソフトウェアツールにアクセスするための PATH 環境変数の設定 20
 - Sun Studio 11 のマニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定 21
 - 環境変数の変更 21
- プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用 22
- 3. Sun Studio 11 IDE の起動と設定 25
 - IDE の起動 25
 - 設定ウィザードの使い方 26
 - 登録ウィザードの使い方 27
 - システム管理者への注意 28
- 4. Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール 29
 - 以前のバージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール 30
 - バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール 30
 - GUI アンインストーラによるアンインストール 31
 - コマンド行アンインストーラによるアンインストール 33
- 5. 障害追跡 35
 - インストールログファイルの参照方法 35
 - NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合 36
 - バッチインストーラが停止した場合の対処法 36

A.	Sun Studio 11 のコンポーネントとパッケージ	39
B.	Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号	43
	用語集	45
	索引	47

表目次

表 1-1	システム要件	3
表 2-1	batch_installer のオプションとその説明	17
表 2-2	batch_installer コマンドとオプションの使用方法	17
表 4-1	ソフトウェア名とアンインストーラ .class ファイル名の関係	31
表 A-1	Sun Studio 11 製品の RPM パッケージ	39
表 B-1	Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号	43

はじめに

このマニュアルでは、次の作業手順について説明します。

- Sun™ Studio 11 ソフトウェアおよびシリアル番号のインストール
- Java™ 2 Platform, Standard Edition (J2SE™) テクノロジーのインストール (推奨)
- インストール後の統合開発環境 (IDE) の起動と設定
- Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール
- インストールに関する問題のトラブルシューティング

このマニュアルは、ソフトウェアのインストールを行うシステム管理者、およびソフトウェア開発アプリケーションを使用する開発者を対象にしています。Linux オペレーティングシステムとコマンドについての知識が必要となります。

書体と記号について

表 P-1 書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これら設定と異なって表示される場合があります。

表 P-2 コードについて

コードの記号	意味	記法	コード例
[]	角括弧には、オプションの引数が含まれます。	O[n]	-O4,-O
{}	中括弧には、必須オプションの選択肢が含まれます。	d{y n}	-dy

表 P-2 コードについて (続き)

コード の記号	意味	記法	コード例
	「パイプ」または「バー」と呼ばれる記号は、その中から1つだけを選択可能な複数の引数を区切ります。	B{dynamic static}	-Bstatic
:	コロンは、コンマ同様に複数の引数を区切るために使用されることがあります。	Rdir[:dir]	-R/local/libs:/U/a
...	省略記号は、連続するものの一部が省略されていることを示します。	-xinline=f1[,...fn]	-xinline=alpha,dos

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページへのアクセス

Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページは、`/usr/bin/` と `/usr/share/man` ディレクトリにはインストールされません。ソフトウェアにアクセスするには、`PATH` 環境変数を正しく設定しておく必要があります (xii ページの「ソフトウェアへのアクセス方法」を参照)。また、マニュアルページにアクセスするには、`MANPATH` 環境変数を正しく設定しておく必要があります (xii ページの「マニュアルページへのアクセス方法」を参照)。

PATH 変数についての詳細は、csh(1)、sh(1)、ksh(1)、および bash(1) のマニュアルページを参照してください。MANPATH 変数についての詳細は、man(1) のマニュアルページを参照してください。

注 – この節に記載されている情報は Sun Studio のソフトウェアが /opt/sun/ ディレクトリにインストールされていることを想定しています。製品ソフトウェアが /opt/sun 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

ソフトウェアへのアクセス方法

PATH 環境変数を変更してソフトウェアにアクセスできるようにする必要があるかどうか判断するには以下を実行します。

PATH 環境変数を設定する必要があるかどうか判断する

1. 次のように入力して、PATH 変数の現在値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. 出力内容から /opt/sun/sunstudio11/bin/ を含むパスの文字列を検索します。
パスがある場合は、PATH 変数はソフトウェアのツールにアクセスできるように設定されています。このパスがない場合は、次の手順に従って、PATH 環境変数を設定してください。

PATH 環境変数を設定してソフトウェアにアクセスする

- 次のパスを PATH 環境変数に追加します。以前に Forte Developer ソフトウェア、Sun ONE Studio ソフトウェア、または Sun Studio の他のリリースをインストールしている場合は、インストール先のパスの前に、次のパスを追加します。

```
/opt/sun/sunstudio11/bin
```

マニュアルページへのアクセス方法

マニュアルページにアクセスするために MANPATH 環境変数を変更する必要があるかどうかを判断するには以下を実行します。

MANPATH 環境変数を設定する必要があるかどうか判断する

1. 次のように入力して、dbx のマニュアルページを表示します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

dbx(1) のマニュアルページが見つからないか、表示されたマニュアルページがソフトウェアの現バージョンのものと異なる場合は、この節の指示に従って、MANPATH 環境変数を設定してください。

MANPATH 環境変数を設定してマニュアルページにアクセスする

- 次のパスを MANPATH 環境変数に追加します。

```
/opt/sun/sunstudio11/man
```

統合開発環境へのアクセス方法

Sun Studio 統合開発環境 (IDE) には、C や C++、Fortran アプリケーションを作成、編集、構築、デバッグ、パフォーマンス解析するためのモジュールが用意されています。

IDE を起動するコマンドは、sunstudio です。このコマンドの詳細は、sunstudio(1) のマニュアルページを参照してください。

IDE が正しく動作するかどうかは、IDE がコアプラットフォームを検出できるかどうかによって依存します。このため、sunstudio コマンドは、次の 2 つの場所でコアプラットフォームを探します。

- コマンドは、最初にデフォルトのインストールディレクトリ /opt/sun/netbeans/3.5V11 を調べます。
- このデフォルトのディレクトリでコアプラットフォームが見つからなかった場合は、IDE が含まれているディレクトリとコアプラットフォームが含まれているディレクトリが同じであるか、同じ場所にマウントされているとみなします。たとえば IDE が含まれているディレクトリへのパスが /foo/sunstudio11 の場合は、/foo/netbeans/3.5V11 ディレクトリにコアプラットフォームがないか調べます。

sunstudio が探す場所のどちらにもコアプラットフォームをインストールしていないか、マウントしていない場合、クライアントシステムの各ユーザーは、コアプラットフォームがインストールされているか、マウントされている場所 (*/installation_directory/netbeans/3.5V11*) を、`SPRO_NETBEANS_HOME` 環境変数に設定する必要があります。

Forte Developer ソフトウェア、Sun ONE Studio ソフトウェア、または他のバージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合、IDE の各ユーザーは、`$PATH` のそのパスの前に、*/installation_directory/sunstudio11/bin* を追加する必要もあります。

`$PATH` には、*/installation_directory/netbeans/3.5V11/bin* のパスは追加しないでください。

Sun Studio マニュアルへのアクセス方法

マニュアルには、以下からアクセスできます。

- 製品マニュアルは、ご使用のローカルシステムまたはネットワークの製品にインストールされているマニュアルの索引から入手できます。

`file:/opt/sun/sunstudio11/docs/ja/index.html`

製品ソフトウェアが `/opt` 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

- マニュアルは、`docs.sun.comsm` の Web サイトで入手できます。
- `docs.sun.com` Web サイトからは、Solaris および Linux 両方のプラットフォーム用のリリースノートを手入手できます。
- IDE の全コンポーネントのオンラインヘルプは、IDE 内の「ヘルプ」メニューだけでなく、多くのウィンドウおよびダイアログにある「ヘルプ」ボタンを使ってアクセスできます。

インターネットの Web サイト (<http://docs.sun.com>) から、Sun のマニュアルを参照したり、印刷したり、購入することができます。マニュアルが見つからない場合はローカルシステムまたはネットワークの製品とともにインストールされているマニュアルの索引を参照してください。

注 – Sun では、本マニュアルに掲載した第三者の Web サイトのご利用に関しましては責任はなく、保証するものでもありません。また、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

アクセシブルな製品マニュアル

マニュアルは、技術的な補足をすることで、ご不自由なユーザーの方々にとって読みやすい形式のマニュアルを提供しております。アクセシブルなマニュアルは以下の表に示す場所から参照することができます。製品ソフトウェアが /opt 以外のディレクトリにインストールされている場合は、システム管理者に実際のパスをお尋ねください。

マニュアルの種類	アクセシブルな形式と格納場所
マニュアル (サードパーティ製マニュアルは除く)	形式: HTML 場所: http://docs.sun.com
Readme	形式: HTML 場所: http://developers.sun.com/prodtech/cc/documentation/ss11/ja/mr/READMEs の開発者ポータル
マニュアルページ	形式: HTML 場所: file:/opt/sun/sunstudio11/docs/ja/index.html のマニュアル索引
オンラインヘルプ	形式: HTML 場所: IDE 内の「ヘルプ」メニューおよび「ヘルプ」ボタン
リリースノート	形式: HTML 場所: http://docs.sun.com

開発者向けのリソース

<http://developers.sun.com/prodtech/cc> にアクセスし、以下のようなリソースを利用できます。リソースは頻繁に更新されます。

- プログラミング技術と最適な演習に関する技術文書
- プログラミングに関する簡単なヒントを集めた知識ベース
- コンパイラとツールコンポーネントのマニュアル、およびソフトウェアとともにインストールされるマニュアルの訂正
- サポートレベルに関する情報
- ユーザーフォーラム
- ダウンロード可能なサンプルコード
- 新しい技術の紹介

<http://developers.sun.com> でも開発者向けのリソースが提供されています。

技術サポートへの問い合わせ

製品についての技術的なご質問がございましたら、以下のサイトからお問い合わせください (このマニュアルで回答されていないものに限りです)。

<http://jp.sun.com/service/contacting>

第1章

インストールの準備

この章には、次のトピックに関する情報が含まれます。

- ソフトウェアのインストールの概要
- システム要件
- スワップ空間の追加
- インストーラのローカル表示とリモート表示の選択
- NFS マウントのファイルシステムへのインストール
- このリリースに含まれるインストール機能

ソフトウェアのインストールの概要

この節では、Sun Studio 11 ソフトウェア、製品シリアル番号、およびサポートソフトウェアをインストールする一般的な手順の概要を説明します。個々の手順については、各ステップに示した参照先を参照してください。

タスク	内容の説明	参照先
1. Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール先のシステムが、このリリースの最低条件を満たしていることを確認します。	パフォーマンスを正常に維持するために、システム条件に合ったシステムを使用することをお勧めします。	2 ページの「システム要件」を参照してください。
2. ローカル表示とリモート表示のどちらでインストーラを表示するかを決定します。	Sun Studio ソフトウェアは、リモート表示またはローカル表示のどちらを使用してもインストールできます。	詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
3. システムが Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジーにアクセスできることを確認します。	Sun Studio 11 ソフトウェアは、Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジーをサポートします。	必要に応じて、18 ページの「J2SE プラットフォームのインストール」を参照してください。
4. インストール方法を選択します。	Sun Studio ソフトウェアをインストールする方法は 3 通りあります。	詳細は、10 ページの「インストール方法の選択」を参照してください。
5. Sun Studio 11 およびシリアル番号をインストールします。	インストール手順を説明していません。	このインストール手順については、9 ページの「Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール」を参照してください。

システム要件

Sun Studio 11 ソフトウェアのシステム要件は、表 1-1 に示すとおりです。

注 - このリリースに関するさらに詳しいディスク容量要件と重要な最新情報については、<http://docs.sun.com/doc/819-4822> から入手できる Sun Studio 11 リリースノート (Linux プラットフォーム) を参照してください。

表 1-1 システム要件

オペレーティングシステム	SUSE Linux Enterprise Server 9 (英語のみサポート、日本語および中国語はサポートされていません) RedHat Enterprise Linux 4
CPU	x86 アーキテクチャ (32bit) Intel Pentium III 500 MHz 以上 ワークステーション x86 アーキテクチャ (64bit) Sun Java Workstation W2100z もしくは AMD Opteron プロセッサ、 2 x 2.6 GHz 200 シリーズ 以上を推奨 Sun Fire V20z Server 以上
メモリー	1G バイトを推奨 512M バイト以上
スワップ空間*	2 Gバイトを推奨 1 Gバイト以上
ディスク容量	556M バイト以上
J2SE テクノロジ	J2SE 1.4.2_08 テクノロジ、もしくは J2SE 5.0 Update 3 テクノロジ
コンパイラ	GCC 3.3 ファミリ (Sun Java Desktop System, リリース 3 および SUSE Linux Enterprise Server 9) GCC 3.4 ファミリ (RedHat Enterprise Linux 4) (gcc コンパイラおよび g++ コンパイラのみで、g77 コンパイラはサポートしていません。)

*スワップ空間のチェックには、`swapon -s` コマンドを使用してください。

RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境で Sun Studio 11 ソフトウェアを使用する場合には、以下の J2SE テクノロジが必要です。

J2SE 1.4.2_10 テクノロジ、もしくは J2SE 5.0 Update 5 テクノロジ

これらのバージョンの J2SE テクノロジを別途ダウンロードして使用してください。

スワップ空間の追加

スワップ空間を追加するには、以下を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. スワップ空間を追加するために、次のコマンドで特定のディレクトリにファイルを作成します。

```
# dd if=/dev/zero of=/dir/myswapfile bs=1024 count=number_blocks_needed
```

dir では、スワップ空間の追加権限が与えられているディレクトリを指定します。
myswapfile では、作成するスワップファイルの名前を指定します。
number_blocks_needed では、作成する 1024 バイトのブロック容量を指定します。
詳細は、dd(1) のマニュアルページを参照してください。

3. 次のように入力し、ファイルが作成されたかどうか確認します。

```
# ls -l /dir/myswapfile
```

新しいファイルがディレクトリに表示されます。

4. 次のように入力し、新しいスワップ空間を初期化します。

```
# mkswap /dir/myswapfile
```

詳細は、mkswap(8) のマニュアルページを参照してください。

5. 次のように入力して swapon コマンドを実行し、ページングおよびスワッピング用に新しいスワップ空間を使用できるようにします。

```
# swapon -a /dir/myswapfile
```

6. 次のように入力し、スワップ空間が追加されたかどうか確認します。

```
# swapon -s
```

出力には、割り当てられたスワップ空間が表示されます。

インストーラのローカル表示とリモート表示の選択

グラフィカルユーザーインタフェースインストーラまたはコマンド行インストーラを使用した Sun Studio 11 のインストールでは、インストーラをローカル表示またはリモート表示することができます。

- ローカル表示 - ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが同じです。製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルが存在し、インストーラを実行するコンピュータに、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。第 2 章に進みます。
- リモート表示 - ソースコンピュータとディスプレイコンピュータが別々です。ソースコンピュータに製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルをセットしてインストーラを実行します。ディスプレイコンピュータではインストーラウィンドウやコマンド行インストーラを表示します。リモート表示を使ってインストールを行う場合は、5 ページの「リモート表示によるインストールの準備」または、6 ページの「NFS マウントのファイルシステムへのインストール」の手順に従います。

リモート表示によるインストールの準備

リモート表示を使ってインストールを行う場合、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイコンピュータで、コマンド行に次のコマンドを入力し、クライアントから X サーバーにアクセスできるようにします。

```
% xhost + source-computer-name
```

source-computer-name には、ソースコンピュータ (製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むコンピュータ) で `/usr/bin/hostname` コマンドを実行したときに出力される名前を入力します。

2. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータにログインし、スーパーユーザー (`root`) になります。

```
% rlogin source-computer-name -l rootname  
Password: root-password
```

3. ソースコンピュータで、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを表示先に設定します。

C シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# setenv DISPLAY display-computer-name:0.0
```

GNU Bourne-Again シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

Korn シェルを使用する場合は、次のコマンドを入力します。

```
# export DISPLAY=display-computer-name:0.0
```

display-computer-name には、ディスプレイコンピュータで `/bin/hostname` コマンドを実行したときに表示される名前を入力します。

NFS マウントのファイルシステムへのインストール

NFS マウントのファイルシステムに Sun Studio ソフトウェアをインストールするには、NFS パーティションがマウントされている場所に関係なく、サポートされているシステムでインストーラを実行する必要があります。次の手順では、サーバーは、インストールするソフトウェアが置かれる物理ディスクのあるマシン、クライアントは、インストーラを実行してサーバーからファイルシステムを NFS マウントするマシンです。

注 – NFS マウントのファイルシステムとして製品イメージを共有する最良の方法は、サポートされている 1 台のシステムからそのイメージをエクスポートすることです。サーバーでインストーラを実行し、ソフトウェアがインストールされているディレクトリを共有設定します。次の NFS インストール手順は、NFS サーバーが製品でサポートされているプラットフォームでない場合にのみ使用します。

NFS マウントのファイルシステムに Sun Studio ソフトウェアをインストールする準備をするには、以下の手順に従います。

1. サーバマシンで、適切なオプションを付けてファイルシステムを共有設定します。インストーラを実行するクライアントマシンの `root` は、NFS ファイルシステムに対する完全なアクセス権を持っている必要があります。

```
# /usr/sbin/exportfs -o no_root_squash,rw client-machine:filesystem
```

2. クライアントマシンで、読み取り/書き込みアクセス権付きで共有ファイルシステムをマウントします。

```
# mount server-machine:filesystem installation-directory
```

たとえばクライアントマシン `foo` のインストールディレクトリ `/mnt` にファイルシステムをマウントします。

これで、クライアントマシンでグラフィカルユーザーインターフェース形式のインストーラ、コマンド行形式のインストーラ、あるいはバッチ形式のインストーラを実行することによって Sun Studio 製品をインストールできます。グラフィカルユーザーインターフェース形式またはコマンド行形式のインストーラの場合は、インストールディレクトリとして `/mnt` を選択します。バッチ形式のインストーラの場合は、`-d` オプションを使用し、インストールディレクトリとして `/mnt` を指定します。

サポートされているバージョンの Linux のいずれかが動作しているマシンの場合は、ソフトウェアのインストールを終了すると、そのインストールされたサーバーからファイルシステムをマウントし、ソフトウェアを実行できます。

NFS マウントのファイルシステムにインストールされた Sun Studio ソフトウェアをアンインストールするには、インストールに使用したのと同じクライアントマシンでアンインストーラを実行する必要があります。このとき、アンインストーラを実行する前にファイルシステムをマウントしておいてください。

このリリースに含まれるインストール機能

この Sun Studio 11 ソフトウェアのリリースには、次のインストール機能が付属しています。

- グラフィカルユーザーインターフェースのインストール
- コマンド行のインストール
- バッチのインストール
- J2SE ソフトウェアのインストール
- バッチのアンインストール
- グラフィカルユーザーインターフェースのアンインストール

- コマンド行のアンインストール

このマニュアルには、各機能を使用する手順が示されています。

第2章

Sun Studio 11 ソフトウェアのインストール

この章では、Sun™ Studio 11 ソフトウェア とシリアル番号をインストールするための具体的な手順について説明します。

旧リリースの Sun Studio のサポート

システムに Sun Studio ソフトウェアの他のリリースがインストールされている場合は、別のインストールディレクトリに Sun Studio 11 をインストールしてください。Sun Studio 10 update 1 Early Access ソフトウェアがインストールされている場合は、Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールする前に必ずアンインストールしてください。

インストールが完了したら、環境変数 PATH と MANPATH を修正して、新しいディレクトリを含めます。新しいリリースを使用するように変数を設定する方法の詳細は、19 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」を参照してください。

ダウンロードしたファイルのインストール

製品 Web サイトのダウンロードページから取得可能なドキュメント「Download Instructions」にファイルの詳しいダウンロードおよび抽出手順が記載されています。ダウンロードによって Sun Studio 11 ファイルを取得する場合は、このドキュメントの指示に従って作業を実行してから、製品のインストールを進めてください。

インストール方法の選択

Sun Studio 11 ソフトウェアをインストールする方法は次の 3 通りあります。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) インストーラを使用する。この手順については、10 ページの「GUI インストーラによるインストール」を参照してください。
- グラフィカルユーザーインターフェイス機能が使用できない場合は、コマンド行インストーラを使用する。この手順については、14 ページの「コマンド行インストーラによるインストール」を参照してください。
- バッチインストーラを使用 (16 ページの「バッチインストーラによるインストール」を参照) して、デフォルトインストールでソフトウェアをインストールします。

注 – インストーラが必要な J2SE テクノロジを検出できない場合、次の構文で `-j` オプションを使って、インストーラを実行します。

```
./installer --jdkhome /usr/java
```

注 – RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境でインストールする場合には、必ず上記の構文で、別途インストールした J2SE 1.4.2_10 テクノロジ、もしくは J2SE 5.0 Update 5 テクノロジを指定して、インストーラを実行してください。

例: # `./installer --jdkhome /usr/java/j2sdk1.4.2_10`

GUI インストーラによるインストール

ここでは、製品 CD-ROM で提供されているグラフィカルユーザーインターフェイスインストーラを使用して、Sun Studio 11 ソフトウェアとシリアル番号をインストールする方法を説明します。電子ダウンロードで製品を入手する場合は、製品 Web サイトのダウンロードページから入手できる「Download Instructions」のすべての指示に必ず従ってください。

注 – ソフトウェアのインストールに `rpm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力してスーパーユーザーになります。

```
% su  
Password: root-password
```

注 – スーパーユーザー (root) でログインしないでインストーラを起動した場合は、スーパーユーザー (root) でログインするようにインストーラから指示されます。

注 – RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境でインストールする場合には、必ず root でログインした後に、--jdkhome オプションで J2SE テクノロジーを指定してインストーラを実行してください。

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。
製品のインストーラが起動します。
インストーラが起動しない場合、次のようにコマンドを入力します。

```
# /CD-ROM へのパス/installer
```

開始ページが表示されます。

4. (電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品ファイルをダウンロードした場合は、以下の手順に従います。
 - a. tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。
 - b. ダウンロードディレクトリから、次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
# ./installer
```

注 – RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境でインストールする場合には、必ず以下の構文で、別途インストールした以下の J2SE テクノロジーを指定して、インストーラを実行してください。

```
例: # ./installer --jdkhome /usr/java/j2sdk1.4.2_10
```

開始ページが表示されます。

5. 開始ページで「次へ」をクリックします。
「初期化中」ページが表示されます。初期化が終わると、「ソフトウェアライセンス契約書」ページが表示されます。
6. 「ソフトウェアライセンス契約書」ページで「同意する」をクリックします。
「同意しない」を選択した場合、インストールを続行できません。
7. 「次へ」をクリックし、「コンポーネントの選択」ページに進みます。
8. 「コンポーネントの選択」ページで、各製品のインストール形式を選択します。
 - 「インストールしない」を選択した場合、該当する製品はインストールされません。
 - 「デフォルトインストール」を選択した場合、該当する製品のすべてのコンポーネントと、それらのコンポーネントに関連するすべてのオンラインドキュメントがインストールされます。
 - 「カスタムインストール」を選択した場合、インストールするサブコンポーネントを選択できます (手順 10)。
9. 「次へ」をクリックし、「インストールディレクトリの選択」ページに進みます。
10. 「インストールディレクトリの選択」ページで、製品をインストールするデフォルトのディレクトリまたは、その他のディレクトリを選択します。終了したら、「次へ」をクリックします。
どの製品についても、「カスタムインストール」を選択しなかった場合は、手順 11 に進みます。
(カスタムインストールを選択した場合)「コンポーネントの選択」ページで「カスタムインストール」を選択した製品がある場合、それらの製品ごとに「サブコンポーネントの選択」ページが表示されます。
 - a. インストールするサブコンポーネントの横のチェックボックスをクリックして、そのサブコンポーネントを選択します。
ボックスにチェックマークの付いたサブコンポーネントがインストールされます。
 - b. 「次へ」をクリックし、インストールを続行します。
インストーラによって十分なディスク容量があるかどうかチェックされ、「インストールの準備完了」ページが表示されます。

11. `df -k` コマンドを使って、「インストールの準備完了」ページに示されたディスク容量がシステムで使用可能であることを確認します。製品のインストールに十分なディスク容量がある場合にディスク容量エラーメッセージが表示されたときは、エラーメッセージを無視してインストールを続行してください。
12. 「インストールの準備完了」ページに、インストールする製品が表示されていることを確認します。
 - インストールする製品が表示されている場合、「インストール開始」をクリックします。
 - インストールする製品を追加したい場合、「戻る」をクリックして「コンポーネントの選択」ページに戻ります。このページで選択を行い、「次へ」をクリックすると、「インストールの準備完了」ページに戻ります。「インストール中」ページにインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。インストールが完了すると、「インストールの一覧」ページが表示されます。
13. 製品のインストールログファイルを参照したい場合、「インストールの一覧」ページで該当する製品の「詳細」ボタンをクリックします。
14. 「製品登録」ページで製品登録に関する説明に目を通し、「次へ」をクリックします。
15. 「インストールの後で」ページでログファイルおよび製品の実行方法に関する説明に目を通します。
16. 「終了」をクリックして Sun Studio 11 インストールを終了します。
17. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。
18. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

19. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

20. Sun Studio 11 ソフトウェアツールとマニュアルページにアクセスできるようにするには、19 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」の手順に従って、`PATH` 変数と `MANPATH` 変数を設定します。

21. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に ALL_PROXY 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、21 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

コマンド行インストーラによるインストール

ここでは、コマンド行インタフェースを使用して Sun Studio 11 とシリアル番号をインストールする方法について説明します。

注 - ソフトウェアのインストールに rpm コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password: root-password
```

注 - スーパーユーザー (root) でログインしないでインストーラを起動した場合は、スーパーユーザー (root) でログインするようにインストーラから指示されます。

3. CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入します。

GUI インストーラが起動した場合は、「終了」をクリックしてインストーラを終了します。コマンド行でインストーラを再起動するには、次のように入力します。

```
# /CD-ROM へのパス/installer -nodisplay
```

(電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品ファイルをダウンロードした場合は、以下の手順に従います。

- a. tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。
- b. ダウンロードディレクトリから、次のコマンドを入力して、コマンド行のインストーラを開始します。

```
# /download-directory/installer -nodisplay
```

インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

4. 起動メッセージが表示されます。Enter キーを押し、作業を続行します。
「ソフトウェアライセンス契約書」が表示されます。

注 – キーボードによっては、Enter キーは Return キーと同じです。インストール中にデフォルトの選択項目を確定するには、Enter キーを押します。

5. インストーラの指示に従ってインストールを完了します。インストールディレクトリの選択についての詳細は、10 ページの「GUI インストーラによるインストール」の手順 10 を参照してください。
6. インストールが完了した場合、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを確認できます。ログファイルの確認が終了したら、「完了」の番号を入力します。
7. CD-ROM ドライブから CD-ROM を取り出します。
8. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
# xhost - source-computer-name
```

9. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

10. Sun Studio 11 ソフトウェアツールとマニュアルページにアクセスできるようにするには、19 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」の手順に従って、PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。

11. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に `ALL_PROXY` 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、21 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

バッチインストーラによるインストール

バッチインストーラでは最小限他の対話が必要です。これは 1 つのコマンドで実行することができます。バッチインストールを使用するには、次の手順を実行します。

注 – ソフトウェアのインストールに `rpm` コマンドを使用することは避けてください。提供されているインストーラを使用してください。インストーラをバックグラウンドで実行しないでください。

1. リモート表示を使用してインストールするかどうかを決めます。詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。
2. スーパーユーザー (`root`) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su
Password: root-password
```

3. 次のコマンドを使用してバッチインストーラを実行します。

```
batch_installer [-d dirname] [-h]
```

`batch_installer` コマンドで使用可能なオプションについては、表 2-1 を参照してください。

表 2-1 `batch_installer` のオプションとその説明

オプション名	オプションの説明
<code>-d <i>dirname</i></code>	ディレクトリ <i>dirname</i> にインストールします。
<code>-h</code>	<code>batch_installer</code> コマンドの使用法を表示します。

batch_installer コマンドとオプションは、表 2-2 に示す方法で使用できます。

表 2-2 batch_installer コマンドとオプションの使用方法

使用方法	プロンプトで入力するコマンド
デフォルトディレクトリにインストール	<code>#./batch_installer</code>
デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにインストールします。	<code>#./batch_installer -d /dirname</code>

4. 表 2-2 から適切なインストール方法を選択して、batch_installer コマンドを実行します。たとえば、60 日試用ライセンスのシリアル番号を生成するオプションを使用して、デフォルト以外のディレクトリにインストールするには、次のように入力します。

```
# /cdrom/./batch_installer -d /dirname
```

ソフトウェアライセンス契約書が表示されて、ディスクの空き容量が十分かどうかチェックされます。インストールが続行されて、インストールが完了するとプロンプトに戻ります。

(電子ダウンロードの場合) 製品 Web サイトから製品ファイルをダウンロードした場合は、次のように入力します。

```
# /download-directory/install-directory/batch_installer -d /dirname
```

5. (省略可能) リモート表示を使用してインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不可にします。

```
% xhost - source-machine-name
```

6. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

7. PATH 変数と MANPATH 変数を設定します。19 ページの「開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定」を参照してください。

8. プロキシサーバーを使用してインターネットに接続している場合は、プロキシ設定に ALL_PROXY 環境変数を設定すると Sun Studio 11 ソフトウェアのアップデート通知機能が使用できます。プロキシ設定とアップデート通知機能の詳細については、21 ページの「プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用」を参照してください。

J2SE プラットフォームのインストール

Sun Studio 11 統合開発環境 (IDE) は、Java™ 2 Platform, Standard Edition テクノロジ (J2SE™ テクノロジ) をサポートしています。

サポートされている J2SE テクノロジがシステムにインストールされている場合は、インストーラの「コンポーネントの選択」ページに J2SE オプションは表示されません。

サポートされている J2SE テクノロジがシステムにインストールされていない場合は、以下のインストーラの 1 つを使ってこれをシステムにインストールできます。

- 製品 CD-ROM。製品のインストール時にデフォルトインストールを選択すると、J2SE テクノロジがシステムにインストールされます。製品インストール時に J2SE テクノロジをインストールしなかった場合は、インストーラを再度実行し、「コンポーネントの選択」ページで「J2SE SDK 1.4.2」を選択してください。
- 製品 Web サイトのダウンロードページ
<http://www.sun.com/software/products/studio/index.html> からファイルをダウンロードできます。tar ファイルの展開についての詳細は、製品 Web サイトのダウンロードページから利用できる「Download Instructions」を参照してください。10 ページの「GUI インストーラによるインストール」の指示に従い、J2SE テクノロジをインストールしてください。

注 – RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境で Sun Studio 11 ソフトウェアを使用する場合には、J2SE 1.4.2_10 テクノロジ、もしくは J2SE 5.0 Update 5 テクノロジが必要です。これらのバージョンの J2SE テクノロジを別途ダウンロードして使用してください。

インストールの成功の確認

インストールが完了したら、以下のいずれかの方法でインストールが成功したかどうかを確認できます。

- インストーラの「インストールの一覧」ページに情報を表示します。ここでは、インストールされた全製品が一覧表示されます。
 - `/var/opt/sun/install/productregistry` ファイルを表示し、インストールされた製品の一覧を確認します。
 - インストールログファイルを表示します。
- a. プロンプトに次のコマンドを入力し、`logs` ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/opt/sun/install/logs
```

- b. 次のコマンドを入力し、ファイルを表示します。

```
% more Sun_Studio_Software_install.A03200125
```

ファイル拡張子は、ログファイルによって異なります。

開発ツールとマニュアルページ用の環境変数の設定

Sun Studio 11 の製品コンポーネントおよびマニュアルページは、`/usr/bin/`、`/usr/share/man` の各システムディレクトリにインストールされません。このため、Sun Studio 11 を使用できるようにするには、環境変数 `PATH` および `MANPATH` を変更する必要があります。

注 – この節で示しているパスは、Sun Studio 11 パッケージがデフォルトの `/opt/sun` ディレクトリにインストールされていることを前提にしています。別のディレクトリにソフトウェアをインストールした場合は、例の中の `/opt/sun` を該当するディレクトリ名に置き換えてください。

Sun Studio 11 ソフトウェアツールにアクセスするための `PATH` 環境変数の設定

Sun Studio 11 のコマンドを使用するには、`PATH` 環境変数に `/opt/sun/sunstudio11/bin` というパスを含める必要があります。`PATH` 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、PATH 変数の現在の値を表示します。

```
% echo $PATH
```

2. 出力を参照し、パス文字列に /opt/sun/sunstudio11 というパスが含まれているかどうかを確認します。
 - このパスが含まれている場合、PATH 変数は Sun Studio 11 ソフトウェアのツールにアクセスできるように設定されています (パス /opt/sun は別のインストールパスに置き換えることができます)。
 - このパスが含まれていない場合、手順 3 に従って PATH 変数を設定します。
3. パス /opt/sun/sunstudio11/bin を PATH 環境変数に追加します。

Sun Studio 11 のマニュアルページにアクセスするための MANPATH 環境変数の設定

man コマンドを使用して Sun Studio 11 のマニュアルページにアクセスするには、MANPATH 環境変数に /opt/sun/sunstudio11/man というパスを含める必要があります。MANPATH 環境変数を設定する必要があるかどうかを確認するには、次の手順に従ってください。

1. 次のように入力し、dbx(1) のマニュアルページを表示します。

```
% man dbx
```

2. 出力を確認します。

man dbx コマンドで dbx(1) のマニュアルページが見つからないか、インストールしたソフトウェアとは別のバージョンのマニュアルページが表示された場合は、MANPATH 変数が正しく設定されていません。その場合は、次の手順に従って MANPATH 変数を設定します。
3. パス /opt/sun/sunstudio11/man/ を MANPATH 環境変数に追加します。

環境変数の変更

この節では、Sun Studio 11 ソフトウェアのツールとマニュアルページのパスを適切な環境変数に永久的に追加し、Sun Studio 11 のすべてのコンポーネントを常に使えるようにする手順を説明します。ここで示しているコマンドをシェルプロンプトから入力し、そのシェルだけで一時的に使えるようにすることもできます。

1. Sun Studio 11 を PATH および MANPATH 変数に追加します。

注 – 各ユーザーがインストールされたソフトウェアを使用できるようにするには、PATH 変数と MANPATH 変数を設定して、Sun Studio 11 ソフトウェアのパスを各ユーザーの環境に組み込む必要があります。

- a. MANPATH 変数が設定されているかどうかを確認します。シェルプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
% echo $MANPATH
```

空白行が返される場合、MANPATH 変数は設定されていません。1 つ以上のマニュアルページのディレクトリのパスが表示された場合、この変数はすでに設定されています。

- b. ホームディレクトリで環境ファイルを編集します。たとえば、GNU Bourne-Again シェルを使用している場合は、環境ファイルに次の行を追加します。

```
PATH=/opt/sun/sunstudio11/bin${PATH:+:} ${PATH}
MANPATH=/opt/sun/sunstudio11/man:${MANPATH:=/usr/share/man}
```

これらの 2 行に空白を入力しないでください。

2. 手順 1 で修正した環境ファイルを保存します。
3. シェルを初期化し直します。

プロキシ情報の設定によるアップデート通知機能の使用

アップデート通知機能は、定期的に www.sun.com をチェックして、Sun Studio ソフトウェアに関連するパッチやメジャーソフトウェアアップデートなどの、利用可能な変更情報を通知します。

アップデートファイルの現在の内容を表示するには、「ヘルプ」→「製品の更新情報を表示」を選択します。

サーバーとの接続を開始してアップデート情報を入手するには、「ヘルプ」→「製品の更新情報の有無を確認」を選択します。

コマンド行を使用すると、`~/.sunstudio/user_info/latest_updates.html`でアップデートファイルを表示することができます。

システムがプロキシサーバーでネットワークに接続されているのにアップデート通知が確認できない場合は、次の手順でプロキシサーバー情報を設定できます。

1. 「ツール」 → 「セットアップウィザード」を選択します。
2. ウィザードで、「HTTP プロキシサーバーを使用する」チェックボックスを選択します。
3. 「プロキシサーバー名」フィールドにプロキシホスト名を入力し、「ポート」フィールドにポート番号を入力します。
4. 「完了」をクリックします。

プロキシサーバー情報は `ALL_PROXY` 環境変数を使用しても設定できます。次に例を示します。

```
setenv ALL_PROXY myproxy:8080
```

注 – IDE を再起動し、プロキシサーバー情報を認識させる必要があります。

アップデート通知を無効にするには、`SUNW_NO_UPDATE_NOTIFY` 環境変数を `false` 以外の値にします。

アップデート通知機能のプロセスの実行中は、使用状況に関する情報が通知されます。この情報は、Sun Studio ソフトウェアの将来のリリースの改善のために、Sun Microsystems によって使用されます。この情報は匿名で、いかなる個人または組織にも関連付けられることはありません。

第3章

Sun Studio 11 IDE の起動と設定

この章では、システムで Sun™ Studio 11 統合開発環境 (IDE) をソフトウェアをシステムで実行、設定する方法を説明します。

IDE の起動

Sun Studio 11 ソフトウェア をシステムにインストールし、Java™ 2 Standard Edition (J2SE™) テクノロジをシステムにインストールするか、または J2SE テクノロジがインストールされているネットワーク上の場所へのパスを設定したら、ソフトウェアを使用できます。製品を起動するには、以下の手順に従います。

- プロンプトで、以下のように入力します。

```
% sunstudio
```

RedHat Enterprise Linux 4 の日本語環境で Sun Studio 11 ソフトウェアを使用する場合には、以下の J2SE テクノロジが必要です。

J2SE 1.4.2_10 テクノロジ、もしくは J2SE 5.0 Update 5 テクノロジ

次の構文で、別途インストールした J2SE テクノロジを指定して IDE を起動してください。

```
% sunstudio --jdkhome <インストールした J2SE テクノロジへのパス>
```

例: % sunstudio --jdkhome /usr/java/j2sdk1.4.2_10

注 – コマンドへのフルパスは
/installation-directory/sunstudio11/bin/sunstudio です。

サポートされている J2SE テクノロジをソフトウェアが検出できないと、エラーメッセージが表示されます。sunstudio コマンドを実行すると、PATH およびシステムのいくつかの標準的な場所で J2SE テクノロジが検索されます。J2SE テクノロジがシステムにインストールされていない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- --jdkhome オプションを付けて sunstudio コマンドを使い、ネットワーク上の J2SE テクノロジへのパスを指定します。
- ネットワーク上の J2SE テクノロジへのパスに JDK_HOME 環境変数を設定します。シェルを初期化し直してから、sunstudio コマンドを再度入力します。

sunstudio コマンドで使用できるオプションの詳細については、sunstudio(1) のマニュアルページを参照してください。IDE の使い方の詳細は、『統合開発環境 (IDE) Readme』を参照してください。

設定ウィザードの使い方

設定ウィザードは、IDE の開始画面で「設定ウィザード」ボタンをクリックして開くことができます。また、「ツール」->「設定ウィザード」を選択して、設定ウィザードを開くこともできます。設定ウィザードでは、一般的な Sun Studio 11 ソフトウェアの設定とテキストエディタの優先設定を指定できます。

「Sun Studio 基本設定」ページでは、「ウィンドウモード」、「Web ブラウザ」、および「Web プロキシ」を設定できます。「ウィンドウモード」で、優先表示を選択します。「Web ブラウザ」には、外部ブラウザ (UNIX[®]) を選択することが推奨されます。IDE を通して外部 Web ページを表示する必要がある場合は、「Web プロキシ」も指定する必要があります。

「テキストエディタの設定の変更」ページで、テキストエディタを選択できます。デフォルトでは「組み込みエディタ」が選択されます。

設定ウィザードの「モジュールのインストール」ページと「アップデートセンター」ページは、Sun Studio 11 IDE に組み込まれていません。「Sun Studio 基本設定」と「テキストエディタの設定の変更」で設定を選択したら、「完了」ボタンをクリックして設定を保存し、設定ウィザードを終了できます。

IDE の開始画面には、IDE の使用を開始する際に参考になるチュートリアルが表示されます。ツールのマニュアルの表示方法についての詳細は、xi ページの「Sun Studio ソフトウェアおよびマニュアルページへのアクセス」を参照してください。

登録ウィザードの使い方

登録ウィザードは、IDE を最初に実行したときに開きます。登録ウィザードは、「ヘルプ」->「登録ウィザード」をクリックして開くことができます。このほか、オンライン、FAX、または郵送での登録が可能です。

システム管理者への注意

Sun Studio 11 ソフトウェア をインストールしたら、ソフトウェアを使用する開発者に電子メールを送信します。電子メールのテンプレートは、以下のディレクトリに格納されています。

```
/installation-directory/sunstudio11/READMEs/email_template.txt
```

電子メールのテンプレートを使って、以下の情報を提供できます。

- ローカル環境変数の設定
- IDE の起動
- 製品マニュアルの格納場所
- J2SE テクノロジーのローカルインストール

Sun Studio 11 ソフトウェア を使用する各開発者の環境パスに J2SE テクノロジーを含める必要があります。開発者は J2SE テクノロジーをローカルにインストールすることも、パス環境にマップすることもできます。開発者が J2SE 環境をインストールできるように、開発者が使用できるネットワークサーバーに `studio11-lin-x86-j2sdk.tar` ファイルをコピーするか、CD-ROM イメージをマウントしてください。開発者に送信する電子メールでは、J2SE インストーラへのパスを必ず示してください。

第4章

Sun Studio 11 ソフトウェアのアンインストール

この章では、システムにインストールされている Sun™ Studio 11 ソフトウェア製品および関連パッチをアンインストールする方法について説明します。

ソフトウェアのインストール完了後、アンインストーラが自動的に作成されます。このアンインストーラを使用して Sun Studio 11 ソフトウェアを削除する方法は 4 通りあります。

バッチアンインストーラを使用する方法。この方法では、サイレントモードですべての Sun Studio 11 ソフトウェアが削除されます。30 ページの「バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール」を参照してください。

- GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) アンインストーラを使用する方法。この方法では、選択した Sun Studio 11 製品コンポーネントをアンインストールできます。31 ページの「GUI アンインストーラによるアンインストール」を参照してください。
- コマンド行アンインストーラを使用する方法。この方法では、選択した Sun Studio 11 製品コンポーネントを対話型またはサイレントモードでアンインストールできます。33 ページの「コマンド行アンインストーラによるアンインストール」を参照してください。

注 – ソフトウェアのアンインストールに `rpm -e` コマンドを使用することは避けてください。提供されているアンインストーラを使用してください。

以前のバージョンの Sun Studio ソフトウェアがインストールされている場合のアンインストール

Sun Studio 11 製品以外の Sun Studio ソフトウェアがインストールされているシステムに Sun Studio 11 をインストールしている場合は、アンインストーラを使用すると Sun Studio 11 ソフトウェアのみが削除されます。

バッチソフトウェアアンインストーラによるアンインストール

バッチアンインストーラは、サイレントモードですべての Sun Studio 11 ソフトウェアを削除します。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/prod/com.sun.studio_11
```

注 - 製品の Early Access バージョンをアンインストールする場合、アンインストーラのディレクトリは `/var/prod/com.sun.studio_10u1_ean` になります。

3. 次のように入力して、バッチアンインストーラを起動します。

```
# ./batch_uninstall_all
```

バッチアンインストーラが起動し、アンインストールが行われます。

GUI アンインストーラによるアンインストール

Sun Studio 11 のソフトウェア名と、アンインストールで使用するアンインストーラ .class ファイル名の関係を表 4-1 に示します。

表 4-1 ソフトウェア名とアンインストーラ .class ファイル名の関係

ソフトウェア名	アンインストーラの .class ファイル名
IDE およびツールソフトウェア	uninstall_Sun_Studio_Software.class
ソース配布	uninstall_Source_Distribution.class
マニュアル	uninstall_Documentation.class

アンインストーラのクラスファイルの格納場所: /var/prod/com.sun.studio_11

アンインストーラを実行するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザー (root) になっていない場合は、次のように入力します。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、アンインストーラディレクトリに移動します。

```
# cd /var/prod/com.sun.studio_11
```

3. **ls -l** と入力してアンインストーラ .class ファイル名の一覧を表示するか、または表 4-1 を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラの .class ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラの .class ファイル名を使用し、次のコマンドでアンインストーラを起動します。

注 - これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。

```
# java uninstall_uninstaller-class-file-name
```

たとえば、Sun Studio 11 ソフトウェアを削除するには、次のように入力します。

```
# java uninstall_Sun_Studio_Software
```

アンインストールウィンドウが表示されます。開始ページにアンインストールする製品が表示されます。

5. 開始ページで「次へ」をクリックし、アンインストール作業を続行します。
「アンインストール形式を選択してください」ページが表示されます。
6. 「アンインストール形式を選択してください」ページで、アンインストール形式を選択します。
製品のコンポーネントをすべてアンインストールする場合、「全体」を選択します。
「次へ」をクリックし、手順 8 に進みます。
製品の一部のコンポーネントだけをアンインストールする場合、「部分」を選択します。
「次へ」をクリックし、手順 7 に進みます。
7. 「コンポーネントの選択」ページで、アンインストールしたくないコンポーネントの選択を解除します (チェックボックスをクリックしてチェックマークを消します)。
「次へ」をクリックし、作業を続行します。
8. 「アンインストールの準備完了」ページで、「アンインストール開始」をクリックします。
「アンインストール中」ページにアンインストールの進行状況を示すグラフが表示されます。アンインストールが完了すると、「アンインストールの一覧」ページが表示されます。「詳細」ボタンをクリックし、ログファイルを参照します。
9. 「終了」をクリックしてアンインストーラを終了します。
10. (オプション) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```


11. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

コマンド行アンインストーラによるアンインストール

コマンド行でソフトウェア製品を削除するには、次の手順に従ってください。

1. 次のコマンドを入力して、スーパーユーザー (root) になります。

```
% su  
Password: root-password
```

2. 次のように入力し、製品ディレクトリに移動します。

```
# cd /var/prod/com.sun.studio_11
```

3. `ls -l` と入力してアンインストーラ `.class` ファイル名の一覧を表示するか、または表 4-1 を参照して、アンインストールするソフトウェアのアンインストーラ `.class` ファイル名を調べます。
4. 手順 3 で調べたアンインストーラの `.class` ファイル名を使用し、次のコマンドでコマンド行アンインストーラを起動します。

注 - これらのコマンドを入力するときに、ファイル名の `.class` 拡張子は付けなくてください。次に示すコマンドも、`java` コマンドへのパスを含む `PATH` 環境変数を前提とします。

- 対話型のコマンド行アンインストーラを使って製品をアンインストールします。

```
# java uninstall_uninstaller-class-file-name -nodisplay
```

たとえば、Sun Studio 11 ソフトウェアをアンインストールするには、次のように入力します。

```
# java uninstall_Sun_Studio_Software
```

アンインストールする製品が表示されます。手順 5 に進みます。

- プロンプトを表示しないで (サイレントモードで) 製品全体をアンインストールするには、次のコマンドを使用します。

```
# ./batch_uninstall_all
```

製品がアンインストールされ、アンインストーラが終了します。手順 7 に進みます。

5. Enter キーを押し、作業を続行します。
6. コマンド行の指示に従ってアンインストールを完了します。
7. アンインストールが完了して、製品に対応する番号を入力すると、その製品のログファイルを見ることができます。確認作業が終了したら、「完了」の番号を入力します。
アンインストーラが終了します。
8. (省略可能) リモート表示を使用してアンインストールを実行した場合は、ディスプレイコンピュータで次のコマンドを入力し、クライアントアクセスを不能にします。

```
% xhost - source-computer-name
```

9. 次のコマンドを入力して、ソースコンピュータでスーパーユーザー権限を終了します。

```
# exit
```

第5章

障害追跡

この章では、Sun™ Studio 11 ソフトウェアのインストール時やアンインストール時に発生する問題に対処する方法について説明します。

インストールログファイルの参照方法

Sun Studio ソフトウェアをインストールすると、インストールの記録を保存したログファイルが自動的に作成されます。

ログファイルを参照してインストールの問題を追跡するには、次の手順を実行します。

1. プロンプトに次のコマンドを入力し、logs ディレクトリに移動します。

```
% cd /var/tmp/
```

2. 次のコマンドを入力し、ファイルを表示します。

```
% more Sun_Studio_Software_install.A03200125
```

ファイル拡張子は、ログファイルによって異なります。

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合

NFS マウントファイルシステムでインストールが失敗した場合は、そのファイルシステムに対する書き込み権があるかどうかを確認してください。書き込み権は、次の手順を実行して確認できます。NFS マウントファイルシステムでのインストールの詳細は、5 ページの「インストーラのローカル表示とリモート表示の選択」を参照してください。

1. 次のコマンドを実行して、書き込み権があるかどうかを確認します。

```
% touch /net/remote-system/opt/testfile
```

エラーメッセージが表示された場合、書き込み権はありません。次に例を示します。

```
% touch /net/harker/opt/testfile
touch: /net/harker/opt/testfile を作成できません。
```

2. 書き込み権を持つ別のインストールディレクトリを選択するか、またはファイルシステムのアクセス権を変更するようにシステム管理者に依頼してください。

バッチインストーラが停止した場合の対処法

バッチインストーラの起動時に無効なパラメータを入力すると、インストーラが停止してインストールは完了しません。一般的なエラーとしては、無効なシリアル番号を入力した、2つの異なるディレクトリ名を指定した、またはディスク容量が不足しているときにインストーラを起動したことなどがあげられます。

バッチインストールを再起動するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力してログファイルを参照して、エラーメッセージがないかを確認します。

```
% cd /var/opt/sun/install
% more Sun_Studio_Software_install.A03200125
```

2. インストーラを停止するには、Control+C を押します。
3. バッチインストーラを使用して製品をインストールする場合は、第 2 章の 16 ページの「バッチインストーラによるインストール」を参照してください。

付録 A

Sun Studio 11 のコンポーネントとパッケージ

この付録では、Sun Studio 11 ソフトウェア製品を構成する RPM パッケージをリストしています。

表 A-1 は、Linux オペレーティングシステム用の Sun Studio 11 ソフトウェアパッケージの構成およびコンポーネントの情報を示しています。

表 A-1 Sun Studio 11 製品の RPM パッケージ

Sun Studio 11 構築ソフトウェア (SPROCBLD)
Sun Studio 11 分散 make (sun-dmake)
Sun Studio 11 dmake のマニュアルページ (sun-mrdmk)
Sun Studio 11 デモ (SPROCTDEMO)
Sun Studio 11 ツールの使用例とプログラム (sun-tdemo)
Sun Studio 11 X-Designer (SPROCXD)
Sun Studio 11 X-Designer Motif GUI ビルダー (sun-fdxd)
Sun Studio 11 X-designer のマニュアルページとオンラインヘルプ (sun-mrxd)
シリアル番号インストールツールと各種ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11 インストーラと各種ツール (sun-pnsn)
Sun Studio 11 シリアル番号インストールツール (sun-snit)

表 A-1 Sun Studio 11 製品の RPM パッケージ (続き)

Sun Studio 11 IDE (SPROCIDE)

- Sun Studio 11 GUI インタフェースサポート (sun-svc)
- Sun Studio 11 dbx GUI プラグイン (sun-dbxui)
- Sun Studio 11 X-Designer プラグイン (sun-xdplg)
- Sun Studio 11 ブランディングファイル (sun-idext)
- Sun Studio 11 ライセンス管理ツール (sun-nblic)
- Sun Studio 11 External Editor Module Binary Distribution (sun-extended)
- Sun Studio 11 NetBeans Lite (sun-nbide)
- Sun Studio 11 cpp Module Binary Distribution (SUNWnbcpp)
- Sun Studio 11 登録ツール (sun-nbreg)
- Sun Studio 11 IDE コネクタ README (sun-mride)
- Sun Studio 11 Linux マニュアルページ/オンライン情報 (sun-mrlnx)

Dwarf Library Source Distribution (DWSRC)

- Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary (sun-dwrfs)

OpenMotif Source Distribution (OMSRC)

- Sun Studio 11 OpenMotif バイナリ (sun-omsrc)
-

表 A-1 Sun Studio 11 製品の RPM パッケージ (続き)

Sun	フリーウェアエディタ (SPROCED)
	Sun Studio 11 VIM 外部エディタ (sun-gvim)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - architecture-dependent run-time kit (sun-xmbin)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - architecture-independent run-time kit (sun-xmshr)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 editor - source distribution (sun-xmsrc)
	Sun Studio 11 XEmacs 21.4.12 - マニュアル (sun-mrxm)
Sun Studio 11	DBX デバッグツール (SPROCDBX)
	Sun Studio 11 デバッグツール (sun-dbx)
	Sun Studio 11 update 1 デバッグツール (sun-dbxx)
	Sun Studio 11 デバッグツール (sun-jdbx)
	dbx の Sun Studio 11 マニュアルページ/オンライン情報 (sun-mrdbx)
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル (SPROCMISC)
Sun Studio 11	パフォーマンスツール (SPROCPRFT)
	Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザツール (sun-prfan)
	Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64-bit ツール (sun-prfax)
	Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ GUI (sun-prfgn)
	Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザライブラリ API (sun-prflb)
	Sun Studio 11 パフォーマンスアナライザ 64-bit Library API (sun-prflx)
	Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary バイナリ (sun-dwrfb)
	Sun Studio 11 DwarfSupportLibrary のマニュアルページ (sun-mrdwf)
	Sun Studio 11 Analyzer/Collector Command-Line Man Pages (sun-mrpan)
	Sun Studio 11 Analyzer/Collector GUI Online Help and Man Pages (sun-mrpgn)
	シリアル番号インストールツールと各種ファイル (SPROCMISC)

付録 B

Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

この付録では、Sun Studio 11 ソフトウェアに含まれているコンポーネントのバージョン番号を示します。

表 B-1 に、各コンポーネントのバージョン番号を示します。

表 B-1 Sun Studio 11 ソフトウェアのコンポーネントのバージョン番号

コンポーネント	バージョン番号
dbx	7.5
dmake	7.7
パフォーマンスアナライザ	7.5
X-Designer	7.8

用語集

インストールディレクトリ	Sun Studio 11 ソフトウェア製品とライセンスをインストールするディレクトリ。デフォルトのインストールディレクトリは、ソースコンピュータの /opt/sun ディレクトリです。
ソースコンピュータ	インストーラの実行先のマシン。このコンピュータに製品 CD-ROM をセットします (またはダウンロードした製品ソフトウェアを配置します)。
ディスプレイコンピュータ	インストーラウィンドウやコマンド行インストーラの表示先のコンピュータ。ローカル表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは同じコンピュータです。リモート表示によるインストールでは、ディスプレイコンピュータとソースコンピュータは別々のコンピュータです。
バッチインストーラ	バッチインストーラは製品にパッケージ化されているインストーラで、最小限の対話でコマンド行から各製品コンポーネントをインストールできます。
リモート表示	インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストーラのウィンドウまたはコマンド行インストーラとは異なるコンピュータにあります。rlogin コマンドを使用して、製品 CD-ROM またはダウンロードしたファイルを含むソースコンピュータにログインします。インストーラウィンドウの表示先として、DISPLAY 環境変数に、ディスプレイコンピュータに接続されたモニターを設定します。インストーラはソースコンピュータで実行しますが、インストーラウィンドウやコマンド行インストーラはディスプレイコンピュータに表示します。
ローカル表示	インストール方法の 1 つで、製品 CD-ROM またはダウンロードした製品ソフトウェアが、インストールの実行に使用するものと同じコンピュータにあります。ソースコンピュータでインストーラを実行し、ソースコンピュータに接続されたモニターにインストーラウィンドウを表示します。

索引

I

IDE
起動, 25

N

NFS マウントファイルシステム
書き込み権, 36

あ

アンインストーラのファイル名, 31
アンインストール
グラフィカルユーザーインターフェース, 31
コマンド行, 33

い

インストール
CD-ROM, 9
概要, 2
グラフィカルユーザーインターフェース, 11
コマンド行, 14
ディレクトリ, 45
バッチインストーラ, 16
リモート表示, 5

か

環境変数
MANPATH, 21
PATH, 20
変更, 20

し

システム要件, 2
シリアル番号、内容の表示, 19, 35

す

スワップ空間
チェック, 3
追加, 3

せ

設定ウィザード
使用, 26

そ

ソースコンピュータ, 45

て
ディスプレイコンピュータ, 45

と
登録ウィザード
使用, 27

は
バージョン
コンポーネントの, 43
バッチ
インストール, 16
コマンドオプション, 17

ひ
表示
リモート, 5, 45
ローカル, 5, 45

よ
要件、システム, 2

り
リモート表示, 5, 45

ろ
ローカル表示, 5, 45
ログファイル、参照, 35